



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和6年10月20日(日)
秋の合同剪定会に参加しました 編

昨年秋から能代バイパス黒松友の会の剪定会は、初日が日曜日、二日目が月曜日という日程となり、初日に参加しました。前日の雨が上がり、ほどよい日差しと風が吹く剪定日和でした。いつも上下で分担し、二人がかりで剪定しています。今回は能代河川国道事務所の成田さんに、月曜日に上半分の剪定をお願いしました。

ネットワークの松は背が高く、一人で1日では剪定が終わらないことや、立派な枝ぶりが道路側の剪定を難しくしていることから、初めて事務局に丈詰めを希望しました。11時半過ぎ、講師の方々5人が回ってきて下さり、あの枝を、この枝も・・・と伐採方針を決定。間が狭くなっている枝やバランスの悪い枝を次々と大胆にばっさり。梯子にもものぼって伐採して下さり、瞬く間に、もう剪定しなくてもいいんじゃない？というほど綺麗になりました。

今回の剪定会で生じた枝葉は来春まで木高研で自然乾燥させ、市民参加の製炭体験会を開催したいと考えています。ボランティア活動による沿道黒松の剪定枝からどの位の炭素が固定できるのか、黒松剪定と炭焼きがどれくらい温暖化対策に貢献できるのか、多くの皆さんと体験し、一緒に考える場になればと考えています。

ご指導くださいました講師の皆さま、ご準備・サポート下さいました事務局の皆さま、今回も大変、お世話になりました。

文： 渡辺 千明

*令和6年5月26日の活動レポート参照



春の剪定時に根元に撒いた油粕10粒の効果で*、どの葉もいつもの濃緑色に戻り、ふさふさと茂っていました。



講師の方々の合議で全体の整形方針が決まっていきます(上)。上部だけでなく、混みいったところにもハサミを入れて下さいました(下)。成長を想像する力が自分には足りないことを痛感します。



丈詰めと下半分の剪定が終わったNWの松。ずい分とすっきりしました。



丈詰めした枝は直径5cm幅30cmほどのものが幾つもあり(左)、土のう袋3個がいっぱいになりました。後日、木高研に運んでいたが、来春には炭焼きを行う予定です。